

# 今夏の電力需給状況について

2016年10月6日  
北海道電力株式会社

# 1. 今夏の電力需要実績

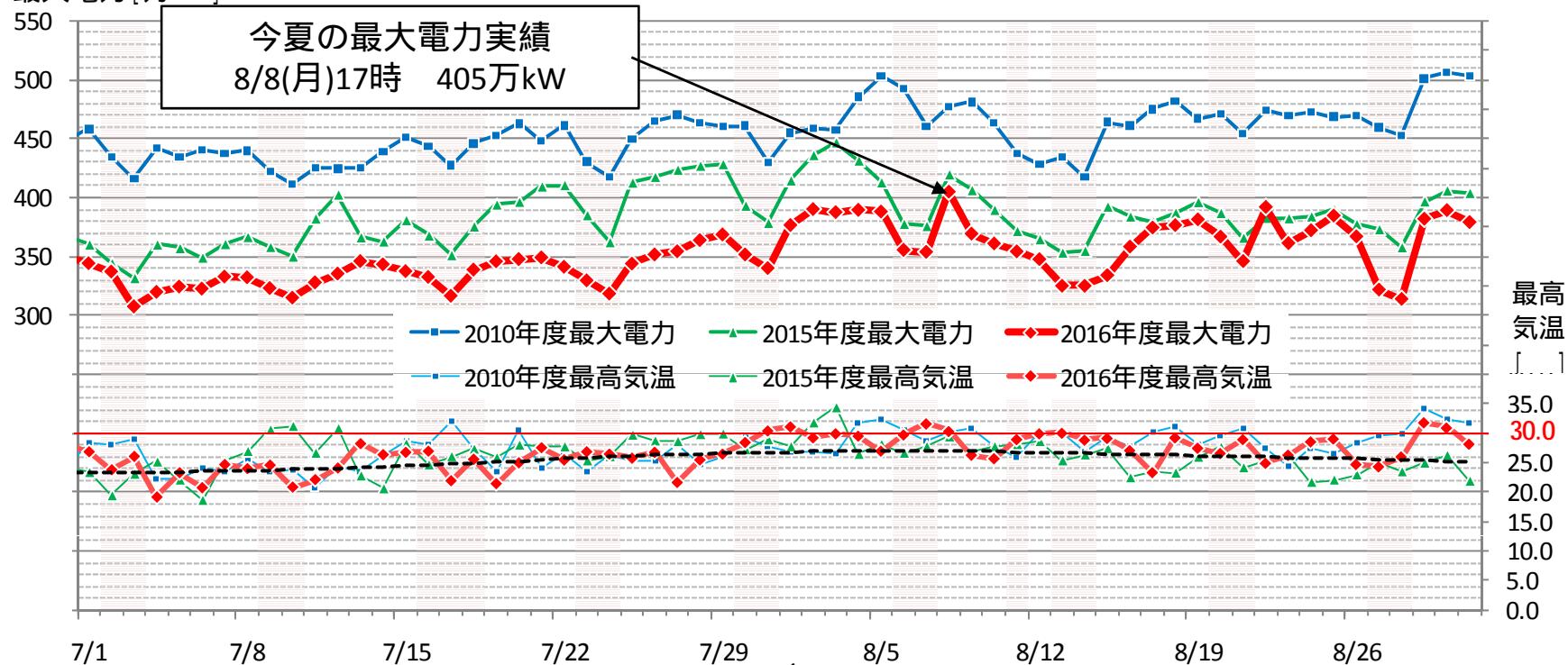
- 今夏(7月から8月)の平日の最大電力の平均は、猛暑であった2010年度と比較すると21.7%、昨夏と比較すると8.3%減少しました。
- また、最高気温が最大電力想定**の基準年である2010年度よりも低く推移したこともあり、最大電力の実績は405万kWと、今夏の最大電力想定428万kWを下回りました。**

【最大電力・最高気温の平均値比較】

[万kW、]

年度	平日最大電力平均	最高気温平均	
		7月	8月
2010	460.3	25.8	29.1
2015	393.1	26.0	26.4
2016	360.4	25.0	28.3
2016/2010	21.7%	0.8	0.8
2016/2015	8.3%	1.0	+1.9

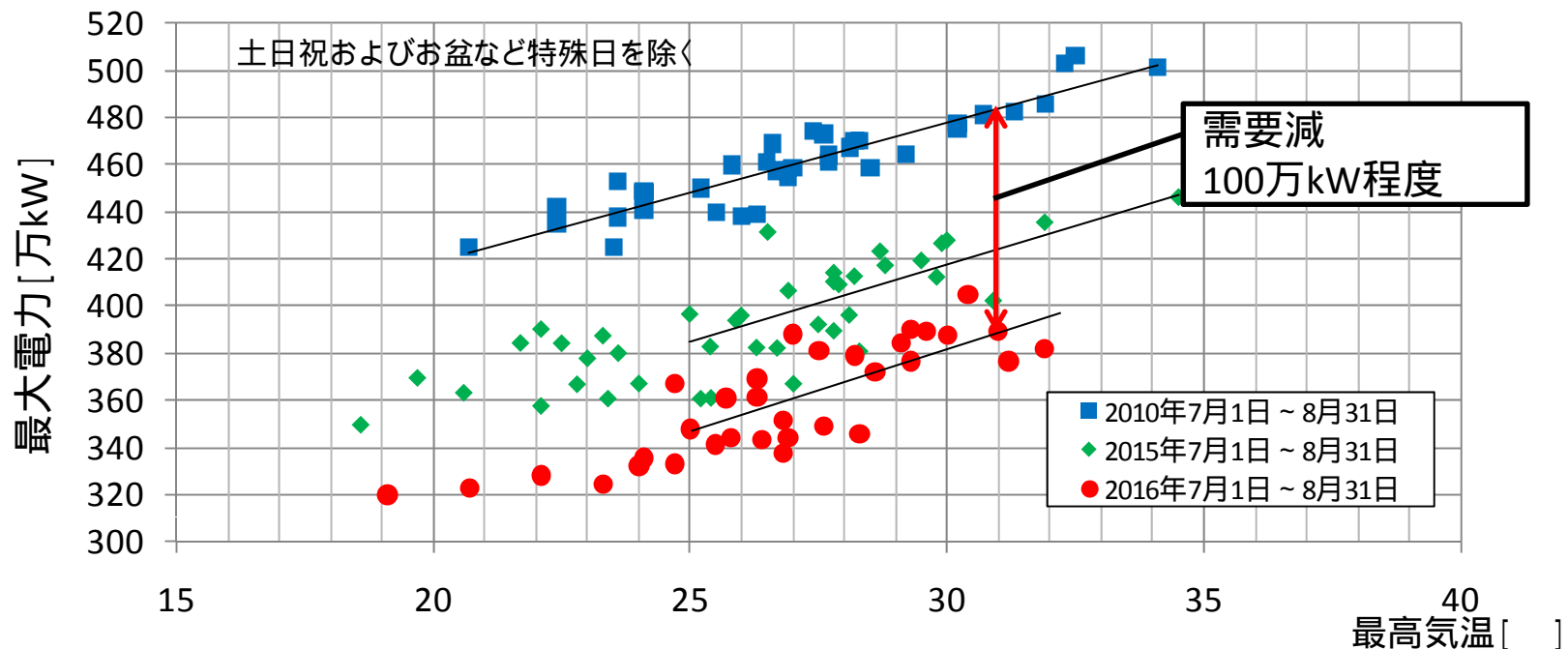
最大電力[万kW] 【今夏の電力需要実績】



## 2. 気温影響を考慮した最大電力の比較

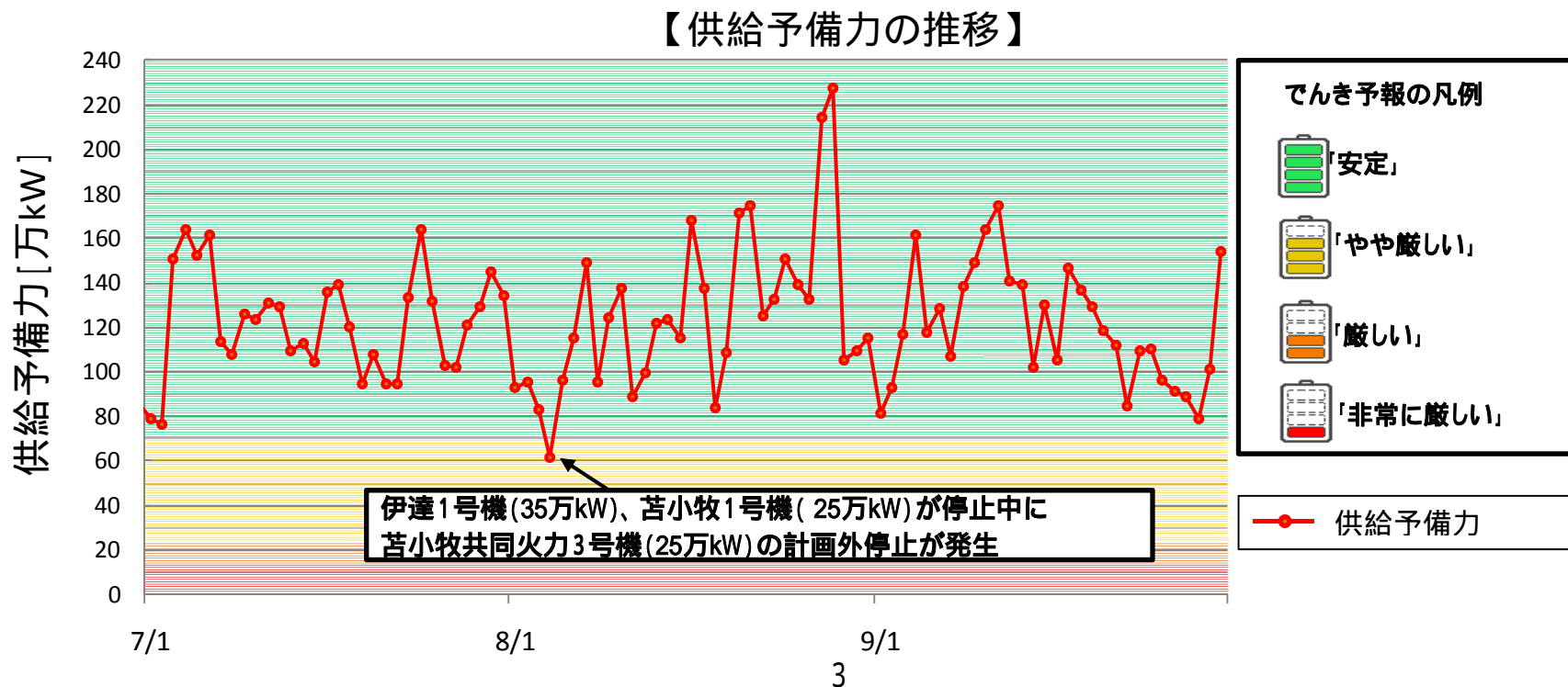
- ・今夏と2010年度および2015年度の平日の最大電力について、気温影響を考慮して比較した場合、景気による影響等は含まれるものの、2010年度実績との比較では平均で100万kW(20.6%)程度、2015年度実績との比較では38万kW(9.0%)程度の需要減となりました。  
 お客様のご協力による節電効果が現れているものと考えております。
- ・なお、震災以降は25℃以下での気温と需要の増減の相関は弱くなっています。これは、比較的涼しい日は空調の使用を控えるなど、お客様の節電へのご協力によるものと考えられます。

【夏季最大電力需要における2010・2015・2016年度の比較】



### 3. 供給予備力の推移

- ・今夏は、複数の中規模火力発電機で計画外停止が重複して発生しました。しかしながら、お客さまの継続した節電へのご協力と、緊急設置電源の継続設置や自家発電設備を保有するお客さまからの電力購入などにより供給力を確保したことにより、でんき予報での「安定」の目安としております70万kW以上を概ね維持することができました。  
 お客さまには節電にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。



## 4 . まとめ

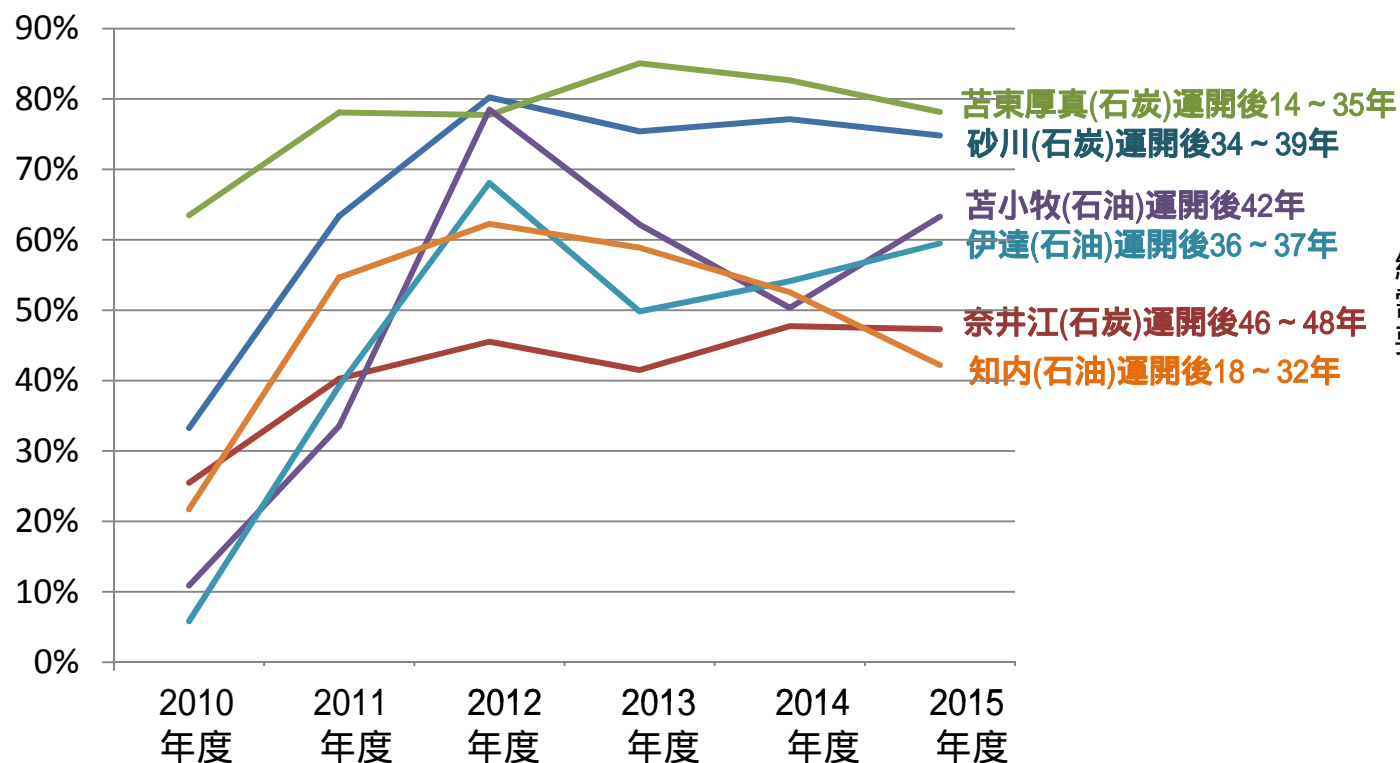
- ・今夏の最大電力は、猛暑により需要増となるリスクや直近の経済成長の伸び、企業や家庭における節電の定着などを織り込み、428万kWと想定しました。
- ・供給力面では、緊急設置電源の継続設置、火力発電所の増出力運転、自家発電設備をお持ちのお客さまからの電力購入に取り組みました。
- ・今夏の需給状況は、お客さまの継続した節電へのご協力や気象影響等により最大電力が405万kWと想定を下回ったこと、また、供給力確保への取り組みに加えて発電設備や流通設備の日常的な保守・点検体制の強化や可能な限りの設備保全に努めたことにより、期間を通じて安定供給を確保することができました。  
お客さまには節電にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。
- ・今後も安定供給に万全を期してまいります。火力・水力の発電設備や連系する送電線、また北本連系設備等の計画外停止が万が一重複して発生した場合には、厳しい需給状況となることも考えられます。  
お客さまにおかれましては、引き続き無理のない範囲での節電にご協力いただきますようお願いいたします。

(参考)

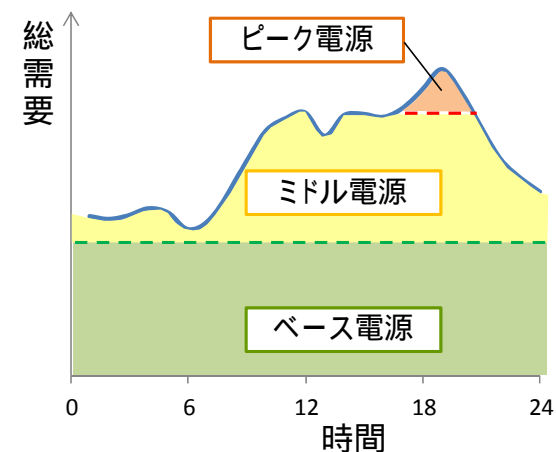
# ( 1 ) 火力発電設備の利用率の推移

- ・ 2011年度以降、泊発電所が順次停止し、ピーク電源であった石油火力発電所については、ベース電源あるいはミドル電源として運用しております。このため、火力発電所の設備利用率は2010年度と比較して大幅に上昇し、現在も高止まりの状況が継続しております。

【火力発電所の設備利用率の状況】

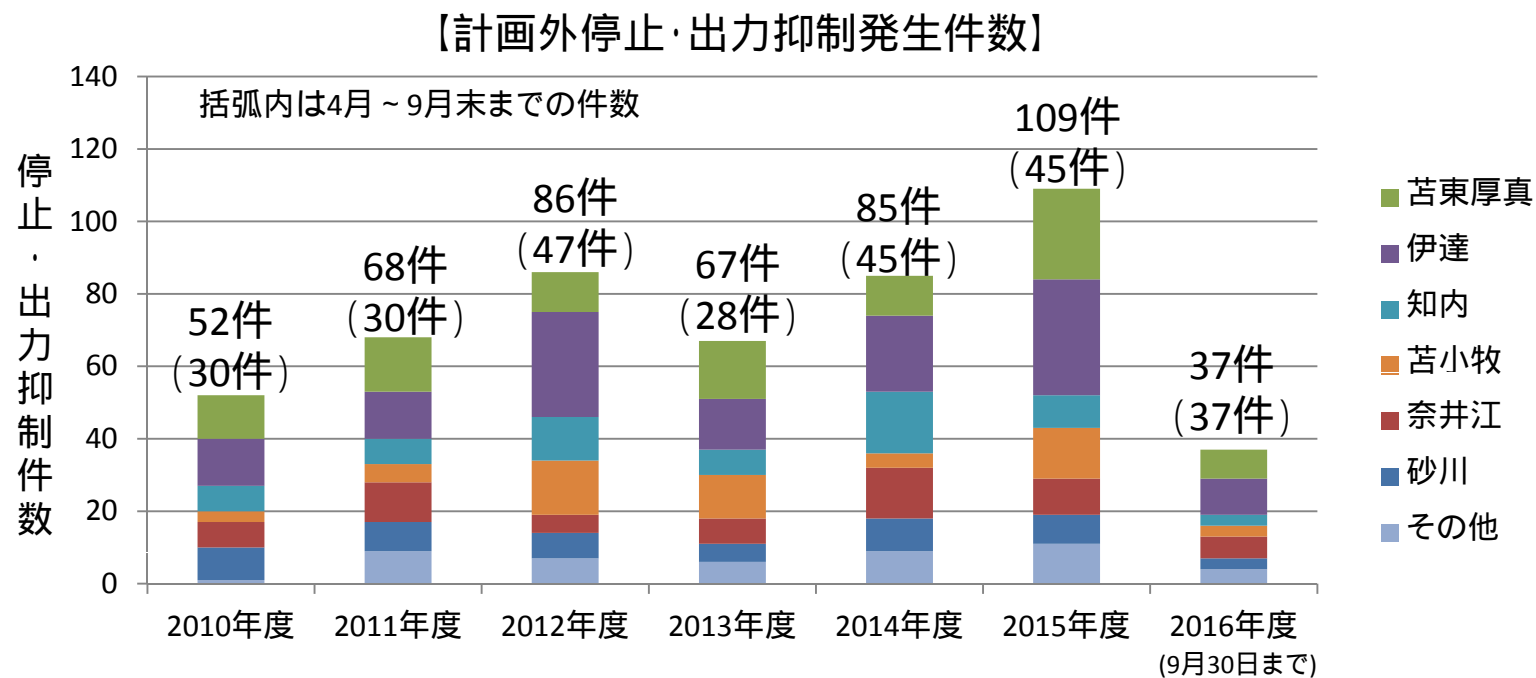


【電源構成イメージ図】



## ( 2 ) 火力発電設備の計画外停止・出力抑制実績

- ・火力発電設備の9月30日までの計画外停止および出力抑制件数(緊急設置電源を除く)は37件でした。
- ・きめ細やかな点検・補修に努めているものの、震災前の2010年度と比較すると、利用率増加・定期点検繰り延べの影響による不具合等(復水器海水漏洩、電気式集じん装置不具合等)により、計画外停止・出力抑制件数が増加しております。
- ・今後も火力発電設備の高稼働運転が想定されるため、計画外停止・出力抑制や、複数台の同時停止等による安定供給への影響が懸念されます。





## ( 2 ) 火力発電設備の計画外停止・出力抑制実績

- ・今年度は、伊達1号機がボイラー蒸発管の損傷により長期に亘って停止したこと、また、火力最大機である苫東厚真4号機で多量の塵芥流入による取水設備の詰まりが発生するなど、火力発電所の設備不具合が多数発生しており、現時点における計画外停止と出力抑制の合計は最大で127万kWとなりました。
- ・当社は引き続き、発電設備やそれらに連系する送電線の日常的な保守・点検体制の強化、可能な限りの設備保全により計画外停止の防止に最大限努力し、安定供給に万全を期してまいります。

苫東厚真4号機( 70)、伊達1号機( 35)、  
知内2号機( 10)、高見1号機( 10)、その他( 2)

【2015～2016年度の発電設備の計画外停止・出力抑制の推移(発電端)】

